



早稲田実業の校歌



koberyol

早稲田実業学校が創立して幾星霜、今年もまた、多数の若者が「去華就実」（華やかなものを去り、実に就く）の校風を堅持して巣立って行く……。そのまた昔、早実で青春を送った者、一人の先輩として、そのなつかしい学び舎に思いを馳せる時、校歌が脳裡をよぎる。

一番

都のいぬみ早稲田なる
常磐（ときわ）の森のけだかさを
わが品性の姿とし
実る稲穂の帽章に
去華就実（きよかしゅうじつ）のこの校風を
高くぞ持するわが健児

二番

国と国との隔（へだ）てなき
民の利福を理想とし
世界を一に結ぶべき
大なる使命をになひたる
聖き活動我が商業の
未来の鍵はこゝにあり

ここに二番までを紹介したが、実際は五番までである。作詞者は相馬御風（そうまぎよふう）である。童謡「春よ来い」や、流行歌で島村抱月との合作「カチューシャの唄」など愛らしい歌詞を生み出した。相馬は、新潟県、糸川出身で詩人、評論家でもある。母校である早稲田大学の校歌「都の西北」を作詞したことでも知られている。

また江戸時代後期の歌人であり良寛の研究に取り組む脱俗の生涯を送った。「良寛さん」に憧れた作風は、名著とされる「大愚良寛」をはじめ、二十冊以上の関連著書を残し、昭和二十五年、六十七歳で世を去った。

なお作曲者は永井建子（ながいけんし）で、早稲田実業学校校歌のほか、拓殖大学校歌や大谷大学学歌など数多くの校歌の作曲を手がけている。この他にも有名なところでは、軍歌「雪の進軍」があり、映画「八甲田山」でも雪中行軍中にうたわれ、こんにちでも永井のつくった歌が耳に

ふれる機会のあることを触れておきたい。

参考図書：「日本の街道」（糸魚川、先国街道、信濃と越後、日本海を結んだ塩のM道。講談社発行）

尚、早実は2001年に創立100年を迎えた。